

株主の皆様へ

2005年3月期のポイント

- ・国際線事業、貨物事業が好調で、売上高は前期比6.2%増の1兆2,928億円となりました。
- ・コスト構造改革を精力的に進めた結果、燃油価格高騰にもかかわらず営業費用は前期比2.7%増の1兆2,150億円に抑えることができました。
- ・営業利益は前期比126.4%増の777億円となり過去2番目の水準となりました。
- ・当期純利益は前期比8.9%増の269億円となりました。
- ・1株当たり3円の配当を行いました。

「アジアNo.1エアライン」を目指し 株主の皆様の期待にこたえる

2005年4月1日に大橋洋治は代表取締役会長に就任し、私、山元峯生が代表取締役社長を務めることになりました。私の使命は、前任の大橋が掲げたグループ経営ビジョン「航空事業を中核としてアジアを代表する企業グループを目指す」を、スピード感を持って実現することであると考えております。安全運航を堅持し、この目標を達成して、株主の皆様のご期待に応えることができるように誠心誠意努力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

コスト構造改革の推進で 変動リスクに強い企業体質に転換

2004年3月期から3年間で変動リスクに強い企業体質を構築するために、300億円の費用削減を目標とした「コスト構造改革」をANAグループ一丸となって強力に推進し、2005年3月期までに目標を1年前倒しで達成することができました。さらに原油価格高騰の環境下でも着実に利益を拡大し、国際線事業は1986年に就航以来、初の黒字化を達成しました。

その結果、2005年3月期の売上高は前期比6.2%増加し1兆2,928億円となりました。営業利

益は前期比126.4%増加し過去2番目の水準となる777億円を計上し、当期純利益は前期比8.9%増加し269億円を計上することができ、1株当たり3円の配当を行いました。

2009年の羽田空港再拡張を見据えて ANAグループ中期経営戦略を実践

2009年には羽田空港の再拡張と本格的な国際空港化が予定されています。競争環境が一層激化することが予想される羽田空港再拡張後の新しい時代を展望し、「アジアNo.1エアライン」になるという目標達成のために、新たに2005～2007年度を対象とした「ANAグループ中期経営戦略」を策定しました。

この3ヵ年でANAグループにとって今後の成長分野である国際線事業を、ネットワークの増強により収益性を高め利益を拡大してまいります。当社にとって大きな収益基盤である国内線事業は、収益性と競争力強化により、安定的な収益成長を目指します。また同じく成長分野である貨物事業についても第3のコア事業とするために、チャンスをとらえてネットワークを増強し収益成長を図ってまいります。

また、「利益体質をさらに強化する」ために、引き続き手を緩めることなくコスト構造改革を進めてまいります。この中期経営戦略期間中に130億円のコ



代表取締役社長 山元 峯生

スト削減を行う考えですが、「環境変化に強い企業体質」をさらに強固にするために、間接固定費の削減なども行います。

同時に、来るべき大競争時代に耐えうる財務体質をつくるために、バランスシートの改善、低収益資産の処分を完了させる考えです。資産・負債の規模に比べて収益性の低い事業については、この中期経営戦略期間中にバランスシートから外してまいります。

そして最終年度の2007年度には、営業利益900億円、ROA6.6%、D/Eレシオ3.9倍という目標を達成いたします。

株主の皆様への還元は経営の重要課題

株主の皆様に対する還元を経営の重要課題として考え、利益配分については経営環境や業績動向などを総合的に勘案し、実施いたします。また、将来の事業展開に備えて、内部留保による財務体質の充実に努め、経営基盤の強化を図っていきます。

「アジアNo.1エアライン」への道のりはまだ半ばですが、中期経営戦略最終年度の2007年度には品質・顧客満足度・価値創造のすべての分野で、目標とするシンガポール航空、キャセイパシフィック航空と肩を並べることができるように、計画を前倒しで実行してまいります。

私たちANAグループの積極果敢なチャレンジにご期待ください。

2005年7月

山元 峯生

代表取締役社長 山元 峯生